

第33回

しんわ美術展

展示期間

2021年10月29日金▶11月7日日

午前10時～午後6時（最終日は、午後2時30分から表彰式のため午前10時～午後2時）

入場
無料

津山市立文化展示ホール（アルネ津山 4F）で開催

第1次審査を通過した全作品を展示します。 約150点を予定



第31回 文部科学大臣賞
日記KAZU-秋 [洋画]
永原 和子（岡山県岡山市）



第31回 グランプリ
町・肆 [日本画]
稻岡 篤（岡山県真庭市）



第31回 金賞
地の華 [洋画]
小林 基（大阪府枚方市）

津山しんわ文化財団は、昭和51年に津山信用金庫の創立50周年を記念して、同金庫からの基金により設立しました。主な目的は、地域の文化意識の向上と文化事業の育成を通じて郷土の発展に寄与することです。その事業の中核をなす「しんわ美術展」は、平成元年に津山市制60周年を記念して第1回が開催されたもので、翌年からは、画家を目指す郷土の若い方々を奨励し、更に進化させたいとの思いから、全国公募の美術展に切り替えました。「しんわ美術展」が他の公募展と異なる点は、①出品料・入場料が無料②事前に審査員を公表しない、という点にあります。当財団の事務局は津山信用金庫が担当しており、企画・立案から運営・管理まで全てを担当しています。津山信用金庫では、支店が小さな美術展としてお客様の憩いの場となっており、今後も地域貢献活動のさらなる充実を追及してまいります。

新型コロナウイルスの今後の感染状況によっては、中止とさせていただく可能性があります

■主催 一般財団法人 津山しんわ文化財団
〒708-0022 津山市山下30-15 津山信用金庫内
TEL. 0868-22-4121 FAX. 0868-32-2958

■後援 岡山県・津山市・真庭市・美作市・山陽新聞社・津山朝日新聞社・
テレビ津山・真庭いきいきテレビ・みまちゃんネル・鏡野町有線テレビ

作州地域の活性化応援信用金庫
作州地域のパートナー・よろず相談信用金庫
■協賛 津山信用金庫
<http://www.shinkin.co.jp/tsuyama/>
e-mail:tsushin@mx1.tiki.ne.jp

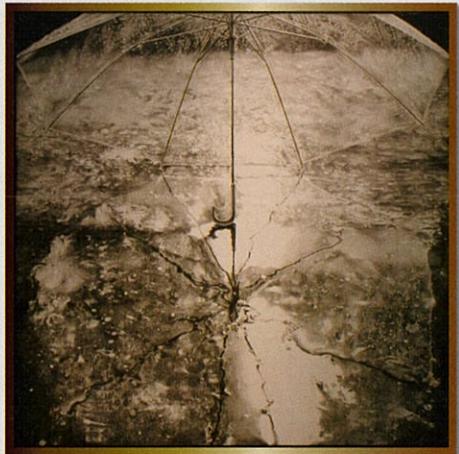
■協力 中国画材・がざい石はら

・過去の優秀作品・



第30回 文部科学大臣賞
翔ぶ準備はできている [洋画]
加地 守 (広島県東広島市)

この作品の明るく前向きなイメージがこの賞にふさわしいと思われた。若い健康的な女性を下から見上げた角度で描き、力強いムーブマン(動勢)を生み出している。背景の大空に浮かぶ雲に大きな翼を重ね合わせたところが作者の工夫。タッチの角度で雲と翼をかき分けている。右腕の扱いも決まっている。



第30回 グランプリ
満天に浮かぶ夜 [洋画]
安富 洋貴 (香川県高松市)

どこにでもある一本のビニル傘から生まれた傑作である。シンメトリーの構図は、正方形の画面と相性がいい。作者の造形への深い考察が窺える画面である。降りしきる夜の雨の怖さと美しさが、雨音とともにひたひたと迫ってくる感がある。その気配を演出しているモノクロームの技法と光の表現に脱帽!



第30回 金賞
「彼方へ」 [洋画]
松宮 純夫 (東京都杉並区)

CGや偶然的な技法を活用していると思われるが、技法解説が難しい現代的な画面作りである。空から見た街のように、電子回路のようにも見えるグレーの部分と、クラゲのようにも見える緑色の部分が静と動の対照を生み出し、緩やかな移動感覚が伝わってくる。ドットで表された人影も効果的である。



第29回 グランプリ
我思ウ、故ニ我在リ [日本画]
古市 正彦 (神奈川県横浜市)

最初に遭遇した時から気になっていた作品である。日本画のジャンルで応募しているが、技法からもかなり自由な印象を受ける。それでもその時点ではグランプリをとるとは思っていなかった。しかし上位賞の最終審査の段階で、この作品は再び輝きだした。やはり独自のコンセプトと個性を持っている作品は強い。私はこの作品と心中するつもりで、この作品を選んだ。それは帽子とマスクで顔を隠し、マフラーでぐるぐる巻きになった体から、言葉にはならない強烈なメッセージが発せられていたからである。色の生かし方も秀逸である。



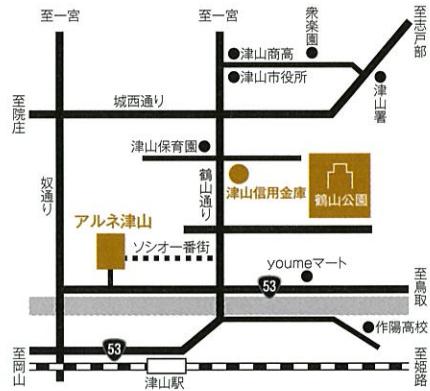
第28回
SUMIKA [洋画]
木太 裕美 (香川県高松市)

モノトーンによる表現で説得力がある作品として、見る者に強く語りかけてくる。樹木の根を「SUMIKA」とする作者の眼力と画面全体を支配する描写力は、審査する中で目についた。決して単調にならず、なぜか深い色彩まで感じさせてくれる。

しんわ美術展の歩み

当財団のメイン事業である「しんわ美術展」は、昭和56年と58年に「郷土出身作家東京作州会美術家展」を、また昭和61年には「在京、在津作家春の美術展」を企画開催し、その後作品展として全国に公募をあげ、今年で33回(内1回は新型コロナウィルスの影響で中止)を数えることができました。前回は2,200名を超える方にご来場頂き、絵画の素晴らしさを作州地域から全国各地へ発信することができました。これも偏に地域の皆さまのご協力はもとより、全国の画家を

目指す皆さまから沢山のご応募を頂いているお陰と深く感謝申し上げます。審査員の先生方からも「岡山県北の地方都市である津山市で全国公募のコンクールが、ここまで長く続いてきたのはちょっとした奇跡である」との言葉を頂いています。この奇跡の灯を絶やすことのないよう、創意工夫と研鑽を重ね、これからも、地域の文化・芸術面での一大イベントとして、積極的に取り組んでまいります。



作州地域の活性化応援信用金庫
作州地域のパートナー・よろず相談信用金庫
津山信用金庫
理事長 松岡 裕司

